

## 平成28年度 兵庫県立視覚特別支援学校 学校評価結果

**1 評価アンケート対象者と回収率**

保護者：50名（96％） 教職員：68名（100％）

**2 評価の方法**

A：そう思う(4点) B：どちらかと言えばそう思う(3点)

C：どちらかと言えばそう思わない(2点) D：そう思わない(1点)

として平均を算出しました。平均値は、小数点以下1桁（切り上げ）で表しました。

**3 総合評価の基準点** A：4.0～3.4 B：3.3～3.0 C：2.9～2.0 D：1.9～1.0

評価項目		総合評価
1	幼児児童生徒が主体的に学習に取り組むように、実態や学習内容に応じて教材や指導方法の工夫・改善を行っている。	3.4 A
2	体験活動は事前の指導計画や事後学習を充実させ、その後の幼児児童生徒の生活や学習にいかされている。	3.4 A
3	人や社会とかわる活動を通じて、思いやりの心や責任感、自立心を養っている。	3.3 B
4	教職員としての専門性と実践的指導力を向上させるために積極的に研修を行っている。	3.3 B
5	社会自立を目指す教育を幼児児童生徒の発達段階に応じて行っている。	3.3 B
6	視覚障害者に適した運動を選択し、基礎体力の向上と運動習慣の定着を図っている。	3.4 A
7	計画的に交流及び共同学習を推進している。	3.3 B
8	施設設備の安全を保ち、整理整頓をしている。	3.2 B
9	災害に対する正しい知識と技能を身につけ、適切に判断して行動できる力を養っている。	3.3 B
10	様々な危機（災害・不審者等）を想定した対策を進めている。	3.2 B
11	学校ホームページ、学校ブログ、「希望の花」、学部(学年)通信等は、保護者への情報提供に役立ち、広報としても機能している。	3.5 A
12	個別面談やカウンセリングなどの機会が設けられ、相談機能が充実している。	3.4 A
13	個別の指導計画は、個々の学習目標や指導の手立て、指導の経過や評価をわかりやすく記述し、保護者に説明している。	3.4 A
14	個別の教育支援計画は、本人のニーズや保護者の願いを聞き取り、共通理解をして作成している。	3.4 A
15	ICT機器（パソコンやタブレット等）の活用を目指し、段階的な指導を行っている。	3.3 B
16	福祉、労働、大学等の関係機関と連携を図り、進路に関する情報提供や指導助言を行っている。	3.0 B
17	教育・医療・福祉等と連携を図り、地域の視覚障害児者への支援相談を行っている。	3.4 A